

ハンド九州高校選抜県予選

ハンドボールの第28回琉球新報旗争奪九州高校選抜大会県予選最終日は24日、八重瀬町東風平運動公園体育館で男女決勝を行った。女子は陽明が終盤の6連続得点で粘る那覇西を突き放し、24-22で制した。6年ぶり6度目の栄冠。

男子は前半だけで10点差をつけた興南が42-21でコザを破り、5年連続23度目の優勝を飾った。

陽	明	24	10	4	22	那覇西
興	南	42	18	7	21	コザ



男子決勝 興南-コザ 後半4分、興南の福田浩大が28点目のシュートを決める

スポット

10月の新人大会で2回戦敗退だった陽明が、悔しさをバネにして頂点を奪った。前半で10-4とリードしながら、後半は那覇西の猛追の前に6連続失点するなど16-18と逆転され、崩れかけた場面もあったが、ここで踏みとまった。

佐平牧生監督の「強気でいけ」の指示に、「キャプテンだし、私が総にいこう」と思って攻めた」という又吉春花主将が連続ゴールで同点。さ

敗戦バネに要所で強気

らに山内卓の得点などで、逆に6連続でゴールを奪い返し、那覇西を突き放した。

準優勝だった県総体からの主力メンバーがほとんど残っている陽明。新人大会の2回戦敗退は3人を故障で欠いたとはいえ、ショックも大きかった。

「てんぐになっていた部分があったかもしれない」と又吉主将。佐平監督に2週間練習を見てもらえない時期もあったが、「自分たちの足りないものを互いに言い合っようになった」と山内と選手たちで乗り越えた。

「よく頑張りましたよ。きょうも試合中に負傷して選手が代わったけど、だからこそ自分たちでなんとかしようというのが見えた」。手放しで褒める指揮官の言葉が、選手の成長を表していた。(大城大輔)

陽明 成長のV



女子決勝 陽明-那覇西 前半、陽明の大城愛が右サイドからシュートを放つ＝東風平体育館(田嶋正雄撮影)

興南 圧倒の頂

守り機能 点差2倍

王者・興南が危なげない試合運びで、コザを退け、1位で「九州切符」をつかんだ。

前半1分、川崎翼の先制点から順調に得点を重ねる一方、一線ディフェンスの守りでコザの攻撃を封じ、点差を広げていった。

黒島宣昭監督は「決勝は、気持ちが入っていた」と評価したが、「準決勝までは、全然だめだった。初戦から決勝のような試合をしなければ」と反省も。

具志堅陽向主将は「準決勝は守りのミスが多く、流れを苦しくしてしまったが、決勝の守りはよかったです」と喜んだ。

ディフェンスで踏ん張りの攻撃でも、ロングシュートなどで最多10得点を挙げた川崎は「チーム全体で、守りからいい流れをつくる」とができた。チームに貢献できてうれしい」と満足げだった。

2月の九州大会に向けて「ディフェンスをもっと磨く」と具志堅主将。川崎も「失点を20点以下に抑え、体格を生かした突破力をつけた」と九州連覇に照準を合わせた。

(安里真己)

準V九州に照準

勢い消えたコザ 気持ち切り替え

○…大差をつけられ、準優勝だったコザ。仲本淳監督は「決勝戦というより、相手が『あの興南』ということで、前日までの勢いがなくなった。それなのに九州大会で上位に入りたい」と前

会には出られる。転んだら起き上がろう、と選手には話した」と語った。

普久原主将は「この負けはショックだが、気持ちを切り替える。ディフェンスをもっと磨いて、九州大会で上位に入りたい」と前

那覇西終盤失速 攻守かみ合わず

○…新人大会覇者の那覇西は前半4-10と出遅れ、それでも後半は一時逆転する粘りをみせたが、終盤に7ミスと失速。攻撃のミスから速攻を浴びるなど、要所で攻守がかみ合わ

なかった。

GKの故障もあり、持味の守備が乱れ、下地保監督は「二からやり直して」と言葉少な。パスミスが多かった攻撃陣の中で、10得点と気を吐いた1年の末吉有里沙は「九州でトップになれるように頑張る」と巻き返しを誓った。